

皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

今回は、卒業生のみ参加ということで、ご家族の皆様には来校をご遠慮いただきました。たいへん申し訳なくと思いますが、ご理解いただくようなにとぞお願いいたします。映像を通してではありますが、ご家族の皆様にはたいしましても祝意をお伝えいたします。

新型コロナウイルス感染症の影響は、一年前に思っていたよりも深刻で長期的なものになっています。この感染症に罹患した方々にあらためてお見舞い申し上げますとともに、近しい人が感染された皆様、社会・経済的な影響を受けられた皆様の困難や不安が早くに取り除かれることを願っております。また、医療関係者を始め、状況を改善しようと奮闘しておられる方々に感謝申し上げたいと思います。

この一年は、キャンパスの主役である学生の皆さんの入構を制限するという状況となってしまいました。本当に残念です。前期の途中から教室での授業が部分的に始まったものの、多くは遠隔授業として行いました。学生の皆さんが、ネットを通じた情報取得や遠隔授業に柔軟に対応してくれたことで、この一年を何とか乗り切ることができました。あらためて感謝いたします。

私たち教員も様々なことを学びながら、そして工夫をしながら授業を行っていました。私の場合、授業内容に関するアンケートや質問を用意して、スマホやパソコンからネット経由で事前に回答してもらい、その集計結果や答えを授業時間内に皆さんに説明することで、興味を持って授業に取り組んでもらうようにしました。NHK の番組「チョコちゃんに叱られる！」のような意表を突く質問ができないか、毎回頭を悩ませていました。

それでは、皆さんに質問をしたいと思います。「女と男がいるのはなぜ？」あるいは「メスとオスがいるのはなぜ？」

分裂のような形で、自分自身のコピーを作る生物がいるのはご存知の通りです。そ

れに対して、メスとオスがいる生物すなわち有性生殖する生物は、相手を見つけて子どもを作りますので、ずっと手間がかかります。なぜわざわざ手間のかかることをするようになったのでしょうか。答えは、子どもに多様性を持たせるため、ということになります。例えば、私は同世代の中ではかなり背が高い方ですが、私が分裂して子どもを作れば身体が大きい子どもばかりということになります。食料が豊富な時代はそれでよいかもしれませんが、もしも気候変動などが起きて食糧不足になれば、身体の小さい方が生きていくために必要なカロリーが少なくてすむので、生き延びる確率が高くなります。環境がどう変化するのは予測しがたいので、多様性が大事です。

しかしながら、こういった食べ物などの生活環境よりも、病気に対する抵抗力の方が重要であったと考えられています。特に、ウイルスや細菌による感染症に対する抵抗力です。医者もいないし病院もない野生の生物にとっては、感染症に罹りにくいことは生きていく上でたいへん大事なことです。例えば、インフルエンザが大流行したとしても、全員が同じように発症するわけではありません。かかり易い人とかかり難い人がいます。しかも、ウイルスは変異しますので、今かかり難い人が将来もかかり難いとは限りません。少しずつ違う子どもを作ることができれば、感染症で全滅せずに誰かが生き残ることができたのでしょう。私たちのよく知っている動物や植物の多くが有性生殖するのは、ウイルスや細菌による感染症が生物にとっていかに重要な問題であったかを示しています。

我々人類は、文明を持ち、他の生物とは大きく異なる存在となりました。それによって感染症に罹ることが減ったのかというと、むしろその逆で、文明化して都市に多くの人が集まるようになったことは感染の危険性をさらに高めました。新型コロナウイルス感染症が大きな問題となって以降、繰り返し言われてきたことではありますが、人類の歴史もまたウイルスや細菌による感染症との戦いの歴史でした。新型コロナウイルスよりはるかに多くの死者を出した感染症の大流行が過去には何度もありました。

今から 60 年以上前には、結核や肺炎といった感染症が日本の死亡原因の上位に位置していました。私の子どもの頃、今から 50 年ほど前でも、感染症が医療・衛生上の大問題であり、その恐ろしさを聞く機会が頻繁にありました。日本脳炎や狂犬病と

いう名前を聞いてはよく知らないままに恐れおののいたものです。しかしその後、当時すでに活発であったワクチン接種の徹底や衛生状態の改善などで、感染症での死亡率が急速に低下していきました。天然痘のように絶滅に成功した感染症さえあります。多くの感染症が予防できる、あるいは感染しても死ぬことがあまりないという状況になったのはごく最近のことにすぎません。

このように人類は常に感染症の危険と隣り合わせであり、都市のように多くの人が集まる場所はその危険性がさらに高かったと言えます。にも関わらず人類は集まって住むことを止めず、都市はますます発展してきました。それは、なぜでしょうか。

人々が集まって協力して生活することにより、感染症の危険以上の豊かさや利便性が人類にもたらされたからです。現代社会の豊かさと利便性は、電気、ガス、上下水道、道路、電話回線や携帯基地局といったインフラ、電車やバスなどの公共交通機関、地方自治体や警察などの公共サービス、医療機関、教育機関、数えきれないほど多種多様な商品の生産、流通、販売などによって支えられています。もちろん、今現在苦境にある飲食や観光などのサービス産業も、現代の豊かさの不可欠な要素です。卒業される皆さんの多くも、仕事を通じてこれら膨大なシステムの維持に貢献されることになるかと思えます。

電気料金やスマホなどの通信料金の値下げが話題になります。もちろん、値段が下がる方がありがたいことは確かですが、インフラの安全性や安定の維持にはコストがかかるのも事実です。電力自由化が進んだアメリカでは、大規模な停電などの問題がしばしば起きています。我々の便利な社会が、あって当たり前として普段はたいして気にしていない膨大なインフラや社会経済活動によって支えられていること、多くの人たちが真面目にきちんと仕事をしてこそ維持されていることに、私たちは思いをいたし続けていくべきでしょう。

ただ、仕事によってだけで現代社会が維持されているわけではありません。日常生活において、ルールを守り、他者にちょっとした配慮をすることで、多くの人が集まるこの社会に安心と信頼がもたらされています。皆さんは普段、特に協力しようと考えて行動していないかもしれません。しかし、仕事や日常生活によって、互いに協力してこの複雑な社会を維持し、混乱に陥ることを防いでいると言えます。

今私たちは、感染症の大流行、いわゆるパンデミックの中にあります。これまで当たり前のようにできていたことに様々な制約がかかっている上に、目に見えないものに対しては、という不安が常にあります。しかし、多くの人になすすべなく亡くなっていった過去の感染症大流行に比べれば、今の私たちは、マスクや消毒液といった日常的な衛生用品から、高度に発達した医療体制まで備えています。それらは、私たちが協力して維持・発展させてきた社会がもたらしてくれているものです。過剰に恐れず、正しく備え、他者へのちょっとした配慮を忘れずに、それぞれの場所でありながらも共に今の時期を過ごしていきたいと思えます。

皆さんは大学から飛び立とうとしています。皆さんにとってかけがえのない時期を過ごす場としてこのキャンパスを選んでもらえたことは、私たち教職員にとって本当に嬉しいことでした。ともに過ごした日々は忘れがたい大切な記憶です。皆さんと再会し、ともに過ごした日々について再び語り合うことを、教職員一同楽しみにしています。

皆さんのこれからの健康と活躍を心より祈念しています。